

森林資源エネルギー活用への提案

■内容

少し前になりますが、テレビで北海道下川町というところの特集を見て、大変感銘を受けました。林業・林産システムの革新等により森林総合産業を構築し、再生可能エネルギーによりエネルギーの完全自給を図り、集住化や高齢者雇用の拡大等により誰もが活躍の場を持ち安心して暮らせる社会を構築するという「森林未来都市」のモデルの実現を目指している自治体です。

田辺市も以前は林業で栄えていたと思いますが、現在では林業従事者も減り、間伐が追いつかず、それによって土砂崩れなどの災害も問題になっていると思います。そこで、下川町のように森林資源をベースに資材、エネルギーの循環型モデル都市の実現を目指していけば雇用の拡大にもつながり、環境に優しい魅力的なまちづくりによりI・Uターンの若者も増え、中山間地域の人口減少にも歯止めを掛けることができるのではないのでしょうか。紀州木の国と言われたほど、森林資源の豊富な和歌山県なら同じような取り組みが出来るのではないかと期待しています。

■回答

市域の約90%を占める広大な森林は、木材生産の機能だけでなく、国土保全等の地域環境の維持など、市民生活の安全安心のためにも、適切な維持管理に努める必要があります。

昨今、木材価格の低迷による林業の不振等により、管理が不十分な人工林が増加しており、環境などを保全する働きの下も懸念されております。地域資源としての森林を維持管理していく上で最も大切なことは、「植林」→「保育（下刈・除伐・間伐）」→「伐採（皆伐）」→「植林」の循環サイクルを維持していくことであり、この地道な作業を継続することが山を守り育てる基本となっております。

市内においても、間伐等の施業が必要な山林が多く見受けられるほか、伐採後も植林のされていない山が多くなってきております。このような状況に対応するため、市では林道整備とともに、森林組合等の作業道の開設や高性能林業機械の導入に対する支援、植林や間伐等の森林施業に対する支援を今後とも推進していかねばならないと考え取組を進めています。また、伐採跡地の植林につきましても、森林所有者の理解と協力のもとに森林組合と連携し、「恵みのやまづくり事業」や「よみがえりの森づくり事業」等の補助事業により、伐採跡地の再造林に対する支援も行っております。

一方、木質バイオマスエネルギー利用の取組としましては、木質バイオマスによる熱利用として、温泉加温用のチップボイラー導入の他、本年度には、龍神村の上山路小学校に木質ペレットストーブを試験的に導入し、暖房能力や燃費効率等の効果を検証した上で、他の学校等へも広げたいと考えております。

ご提言いただきました北海道下川町のような森林資源をベースとした資材、エネルギーの循環モデル都市の実現を目指すことにつきましては、林業再生への取組が山村地域の振興や、林業従事者の雇用にもつながることから、「緑の雇用事業」等によるIターン・Uターン者の雇用対策や紀州木の国と呼ばれる豊富な森林資源を活用した取組を進めてまいりたいと考えております。

【山村林業課 山村振興係】